

知ってますか

技術の

あれこれ

23

# 東日本大震災に思う(5)

ハードからソフトへの思考



三浦 基弘

MIURA Motohiro

元大東文化大学講師

## 堅牢な田老町防潮堤が壊滅

2011（平成23）年3月11日14時46分、東日本大震災発生（図1）。地震時、筆者は埼玉県飯能市のとある蕎麦屋で食事中だった。その後の情報から地震に伴う津波、福島第一原発事故のことも知った。すぐ脳裏に浮かんだのが田老町の防潮堤は、どうなっているのだろうかということであった。田老町はリアス式海岸の湾の奥に位置し、昔から津波に悩まされて、多くの人が犠牲になった場所である。そのため、半世紀かけて世界最強の防潮堤を造った。1960（昭和35）年に襲来したチリ沖地震波で、三陸海岸地域で多くの犠牲

者がでたが、田老地区は堤防が功を奏し、被害は軽微にとどまった。これを機に防潮堤への関心が高まり、海外からも視察団が訪れ、世界の津波研究者に注目されるようになった。しかし、この防潮堤が今回の地震で、無残にも破壊したのである。

## 田老町の防潮堤の建設のあゆみ

田老町は、過去の地震から多くの被害を受けた（表1）。堅牢な防潮堤建設に拍車がかかったのは、1933（昭和8）年の昭和三陸津波であった。田老地区の被害は甚大であった。559戸中、500戸が流失し、人口2,773



図1 震災後の宮城県女川町（吉川 優 画）